



認証ウィンドウとダイアログボックスの概要

Active IQ Unified Manager 9.9

NetApp
January 31, 2025

目次

認証ウィンドウとダイアログボックスの概要	1
Remote Authentication ページの略	1
SAML Authentication ページ	4

認証ウィンドウとダイアログボックスの概要

LDAP認証は、Setup/Authenticationページから有効にできます。

Remote Authentication ページの略

Remote Authentication ページでは、Unified Manager Web UI にログインするリモートユーザを認証できるように、Unified Manager と認証サーバの通信を設定することができます。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

[リモート認証を有効にする] チェックボックスをオンにすると、認証サーバを使用してリモート認証を有効にできます。

• * 認証サービス *

Active Directory や OpenLDAP などのディレクトリサービスプロバイダでユーザを認証するように管理サーバを設定するか、または独自の認証メカニズムを指定できます。認証サービスは、リモート認証を有効にした場合にのみ指定できます。

◦ * Active Directory *

▪ 管理者の名前

認証サーバの管理者名を指定します。

▪ パスワード

認証サーバにアクセスするためのパスワードを指定します。

▪ ベース識別名

認証サーバでのリモートユーザの場所を指定します。たとえば、認証サーバのドメイン名がou@domain.comの場合、ベース識別名はになります `cn=ou,dc=domain,dc=com`。

▪ ネストされたグループの検索を無効化

ネストされたグループの検索を有効にするか無効にするかを指定します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。Active Directory を使用する場合は、ネストされたグループのサポートを無効にすることで認証を高速化できます。

▪ セキュアな接続を使用します

認証サーバとの通信に使用する認証サービスを指定します。

◦ * OpenLDAP *

▪ バインド識別名

認証サーバでリモートユーザを検出する際にベース識別名とともに使用されるバインド識別名を

指定します。

- バインドパスワード

認証サーバにアクセスするためのパスワードを指定します。

- ベース識別名

認証サーバでのリモートユーザの場所を指定します。たとえば、認証サーバのドメイン名がou@domain.comの場合、ベース識別名はになります `cn=ou,dc=domain,dc=com`。

- セキュアな接続を使用します

LDAPS 認証サーバとの通信に使用されるセキュアな LDAP を指定します。

- * その他 *

- バインド識別名

設定した認証サーバでリモートユーザを検出する際にベース識別名とともに使用されるバインド識別名を指定します。

- バインドパスワード

認証サーバにアクセスするためのパスワードを指定します。

- ベース識別名

認証サーバでのリモートユーザの場所を指定します。たとえば、認証サーバのドメイン名がou@domain.comの場合、ベース識別名はになります `cn=ou,dc=domain,dc=com`。

- プロトコルバージョン

認証サーバでサポートされる Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) のバージョンを指定します。プロトコルのバージョンを自動的に検出するか、バージョン 2 または 3 に設定するかを指定できます。

- ユーザー名属性

管理サーバによって認証されるユーザログイン名を含む認証サーバ内の属性の名前を指定します。

- グループメンバーシップ属性

ユーザの認証サーバで指定されている属性と値に基づいて管理サーバのグループメンバーシップをリモートユーザに割り当てる値を指定します。

- UGID

リモートユーザが GroupOfUniqueNames オブジェクトのメンバーとして認証サーバに含まれている場合は、このオプションを使用して、GroupOfUniqueNames オブジェクトで指定されている属性を基に管理サーバのグループメンバーシップをリモートユーザに割り当てることができます。

- ネストされたグループの検索を無効化

ネストされたグループの検索を有効にするか無効にするかを指定します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。Active Directory を使用する場合は、ネストされたグループのサポートを無効にすることで認証を高速化できます。

- **メンバー**

認証サーバがグループの個々のメンバーに関する情報を格納するために使用する属性の名前を指定します。

- **ユーザオブジェクトクラス**

リモート認証サーバ内のユーザのオブジェクトクラスを指定します。

- **グループオブジェクトクラス**

リモート認証サーバ内のすべてのグループのオブジェクトクラスを指定します。

- **セキュアな接続を使用します**

認証サーバとの通信に使用する認証サービスを指定します。



認証サービスを変更する場合は、既存の認証サーバをすべて削除してから新しい認証サーバを追加してください。

Authentication Servers 領域

Authentication Servers 領域には、管理サーバがリモートユーザの検索および認証のために通信する認証サーバが表示されます。リモートのユーザまたはグループのクレデンシャルは、認証サーバで管理されます。

- * コマンドボタン *

認証サーバを追加、編集、または削除できます。

- 追加 (Add)

認証サーバを追加できます。

追加する認証サーバがハイアベイラビリティペアを構成している (同じデータベースを使用している) 場合は、パートナーの認証サーバも追加できます。これにより、いずれかの認証サーバにアクセスできない場合でも管理サーバはパートナーと通信できます。

- 編集

選択した認証サーバの設定を編集できます。

- 削除

選択した認証サーバを削除します。

- * 名前または IP アドレス *

管理サーバでユーザの認証に使用される認証サーバのホスト名または IP アドレスが表示されます。

- * ポート *

認証サーバのポート番号が表示されます。

- * 認証のテスト *

このボタンでは、リモートのユーザまたはグループを認証することで認証サーバの設定を検証します。

テストの際にユーザ名のみを指定すると、管理サーバは認証サーバでリモートユーザを検索しますが、ユーザの認証は行いません。ユーザ名とパスワードを指定すると、管理サーバはリモートユーザの検索と認証を行います。

リモート認証が無効になっている場合は、認証をテストできません。

SAML Authentication ページ

SAML 認証ページを使用して、Unified Manager の Web UI にログインするリモートユーザを SAML を使用してセキュアなアイデンティティプロバイダ (IdP) で認証するように Unified Manager を設定できます。

- SAML 設定を作成または変更するには、アプリケーション管理者ロールが必要です。
- リモート認証を設定しておく必要があります。
- リモートユーザまたはリモートグループを少なくとも 1 つ設定しておく必要があります。

リモート認証とリモートユーザの設定が完了したら、SAML 認証を有効にするチェックボックスをオンにして、セキュアなアイデンティティプロバイダを使用した認証を有効にすることができます。

- * IdP URI *

Unified Manager サーバから IdP にアクセスするための URI。URI の例を次に示します。

ADFS の URI の例：

```
https://win2016-dc.ntap2016.local/federationmetadata/2007-06/federationmetadata.xml
```

Shibboleth の URI の例：

```
https://centos7.ntap2016.local/idp/shibboleth
```

- * IdP メタデータ *

XML 形式の IdP メタデータ。

Unified Manager サーバから IdP の URL にアクセスできる場合は、「* IdP メタデータの取得方法 *」ボタンをクリックしてこのフィールドに値を入力できます。

- * ホストシステム (FQDN) *

インストール時に定義された Unified Manager ホストシステムの FQDN。この値は必要に応じて変更でき

ます。

- * ホスト URI *

IdP から Unified Manager ホストシステムにアクセスするための URI。

- * ホストメタデータ *

XML 形式のホストシステムメタデータ

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。